

1、がんにならない社会の構築

指 標		指標設定時(H30年度)	直近値
年齢調整罹患率(人口10万対)		347.4 (H26年度)	365.0 (H30年度)
成人の喫煙率		男性40.5% 女性12.2% 男女計26.0% (平成28年度)	R5年度中公表予定
未成年者の喫煙率(12~19歳)		男子 0% 女子 2.2% 男女計0.9% (平成28年度)	R5年度中公表予定
何らかの受動喫煙防止対策を実施している施設の割合	行政機関	-	100% (R元年度)
	医療機関	97.6% (平成26年)	98.0% (令和2年)
受動喫煙の機会を有する者の割合	職場	35.6% (平成28年度)	R5年度中公表予定
	家庭	16.3% (平成28年度)	R5年度中公表予定
	飲食店	44.5% (平成28年度)	R5年度中公表予定
成人1日あたりの食塩摂取量		10.0g (平成28年度)	R5年度中公表予定
成人1日あたりの野菜と果物の摂取量	野菜摂取量の平均値	274.5g (平成28年度)	R5年度中公表予定
	果物摂取量100g未満の者の割合	64.5% (平成28年度)	R5年度中公表予定
運動習慣のある者の割合 (1日30分以上・週2回以上の運動を1年以上継続している者)	20歳~64歳 男性17.9% 女性11.6% (平成28年度)	R5年度中公表予定	
	65歳以上 男性47.7% 女性28.2% (平成28年度)	R5年度中公表予定	
適正体重を維持している者の割合 (肥満(BMI25以上)、やせ(BMI18.5未満の者))	20歳~60歳代男性の肥満者 30.9% (平成28年度)	R5年度中公表予定	
	40歳~60歳代女性の肥満者 27.6% (平成28年度)	R5年度中公表予定	
	20歳代女性のやせの者 24.4% (平成28年度)	R5年度中公表予定	
生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合(1日あたりのアルコール摂取量が男性40g以上、女性20g以上の者)		男性14.1% 女性 7.3% (平成28年度)	R5年度中公表予定
肝炎ウィルス検査受検率		9.8% (H29年度)	7.1% (R2年度)

指 標	指標設定時(H30年度)	直近値
・がん検診受診率 (40歳～69歳、子宮頸がんは20歳～69歳) 胃がん／肺がん／大腸がん／子宮頸がん／乳がん	胃がん 41.3% 肺がん 53.6% 大腸がん 40.3% 子宮頸がん 43.1% 乳がん 43.3% (平成28年)	胃がん 43.7% 肺がん 57.9% 大腸がん 45.8% 子宮頸がん 44.7% 乳がん 48.3% (令和元年)
・がん検診精密検査受診率 (40歳～74歳、子宮頸がんは20歳～74歳) 胃がん／肺がん／大腸がん／子宮頸がん／乳がん	胃がん 87.8% 肺がん 86.4% 大腸がん 74.7% 子宮頸がん 84.4% 乳がん 91.8% (平成26年度)	胃がん 93.2% 肺がん 93.7% 大腸がん 79.7% 子宮頸がん 90.5% 乳がん 95.2% (令和2年度)
早期発見率(がん登録に占める限局の割合) (胃がん / 肺がん / 大腸がん / 子宮頸がん / 乳がん)	胃がん 52.3% 肺がん 30.4% 大腸がん 42.9% 子宮頸がん 48.4% 乳がん 57.7% (H26年度)	胃がん 57.3% 肺がん 34.6% 大腸がん 46.6% 子宮頸がん 34.6% 乳がん 60.6% (H30年度)
がん検診受診率(国保/国保)(胃がん50歳～69歳、子宮頸がん20歳～69歳、乳がん・肺がん・大腸がん40歳～69歳)	—	胃がん 16.2% 肺がん 15.2% 大腸がん 13.8% 子宮頸がん 18.6% 乳がん 19.8% (令和2年)
・市町村がん検診「事業評価のためのチェックリスト」の全項目の実施割合<集団検診> 胃がん／肺がん／大腸がん／子宮頸がん／乳がん	胃がん 81.9% 肺がん 81.6% 大腸がん 79.5% 子宮頸がん 80.9% 乳がん 80.2% (平成27年度)	胃がん 97.4% 肺がん 96.6% 大腸がん 97.1% 子宮頸がん 97.4% 乳がん 97.5% (令和3年度)
・市町村がん検診「事業評価のためのチェックリスト」の全項目の実施割合<個別検診> 胃がん／肺がん／大腸がん／子宮頸がん／乳がん	胃がん 62.5% 肺がん 48.1% 大腸がん 75.5% 子宮頸がん 71.5% 乳がん 66.5% (平成27年度)	胃がん(X線) 92.6% (内視鏡) 87.5% 肺がん 92.8% 大腸がん 91.0% 子宮頸がん 90.1% 乳がん 91.3% (令和3年度)

2、患者本位のがん医療の充実

指 標	指標設定時(H30年度)	直近値
75歳未満年齢調整死亡率（人口10万対）	69.8 (H28年)	65.1 (令和3年)
がんによる死亡率（人口10万対）	313.3 (H29年)	321.2 (令和3年)
5年相対生存率（全部位）	58.7% (2009年症例)	59.9% (2014年症例)
・がん診療連携拠点病院数	9病院 (平成28年度)	9病院 (R5.4.1)
・重粒子線治療患者数(年間)	338人 (平成28年度)	767人 (令和3年度)
・骨髄バンクドナー登録数	5,022人 (平成29年7月)	6,242人 (令和4年3月)
手術療法の実績(手術件数(件))/拠点→ 拠点、推進	3,296件(4か月分) (H29.4.1～H29.7.31)	3,168件(4か月分) ※参考(R2.1.1～12.31) 9,505件
放射線療法の実績(放射線治療のべ患者数(人))/拠点→ 拠点、推進	6,968人 (H28.1.1～H28.12.31)	7,911人 (R2.1.1～12.31)
がん薬物療法の実績(がんに係る薬物療法のべ患者数(人))/拠点→ 拠点、推進	6,009人(4か月分) (H29.4.1～7.31)	9,610人(4か月分) ※参考(R2.1.1～12.31) 28,830人
免疫療法提供(保険適用)件数	—	6,575件 (R2.1.1～12.31)
5大がん全てで手術療法・放射線療法・薬物療法の実施体制を整備している、がん診療連携拠点病院及び群馬県がん診療連携推進病院の割合	11病院/17病院 (H29.9.1)	15病院/17病院 (R3.9.1)
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医を配置している、がん診療連携拠点病院及び群馬県がん診療連携推進病院の割合 ※標準的医療内容に説明責任を果たすことができ、指導医等との連携のもと適正医療の継続に必要な知識・医療経験等をもつ医師	15病院/17病院 (H29.9.1)	17病院(170人)/17病院 (R3.9.1)
日本医学放射線学会 放射線治療専門医を配置している、がん診療連携拠点病院及び群馬県がん診療連携推進病院の割合	10病院/17病院 (H29.9.1)	12病院(29.9人)/17病院 (R3.9.1)
日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医を配置している、がん診療連携拠点病院及び群馬県がん診療連携推進病院の割合 ※悪性腫瘍に対する薬物療法(化学療法、抗がん剤治療)において高度な知識や技量、経験を持つ医師	4病院/17病院 (H29.9.1)	4病院(8.0人)/17病院 (R3.9.1)
日本医療薬学会 がん専門薬剤師を配置している、がん診療連携拠点病院及び群馬県がん診療連携推進病院の割合 ※がん専門領域の病気を深く理解し、薬の専門知識を生かすとともに、患者を取り巻く環境を考慮する薬剤師	4病院/17病院 (H29.9.1)	3病院(5.0人)/17病院 (R3.9.1)
日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師を配置している、がん診療連携拠点病院及び群馬県がん診療連携推進病院の割合 ※薬物療法に関して医師や看護師に提案、患者によりよい医療を提供できる薬剤師	—	11病院(16人)/17病院 (R3.9.1)
・がん診療連携拠点病院における、がんと初めて診断された患者のうち、カンサーボードで症例検討が行われた割合(平均)	52% (10病院) (平成27年)	38.8 (令和3年) 増加傾向:4病院 減少傾向:3病院 横ばい:1病院 集計困難:1病院
・がん看護専門看護師を1名以上配置するがん診療連携拠点病院及び群馬県がん診療連携推進病院数	9病院 (平成28年9月)	12病院(22人)/17病院 (R3.9.1)
・がんに関連する認定看護師を配置するがん診療連携拠点病院及び群馬県がん診療連携推進病院数及び各病院ごとの配置人数	—	17病院 (令和3年9月) 増加傾向:3病院 減少傾向:2病院 横ばい:12病院 延べ62人
がん患者指導管理料1算定件数 ※医師が看護師と共同して診療方針等について十分に話し合い、その内容を文書等により提供	1,516件 (H28.1.1～H28.12.31)	4,139件 (R3.9.1)
年間がんのセカンドオピニオン外来受診件数	369件 (H28.1.1～H28.12.31)	291件 (R3.9.1)

指 標	指標設定時(H30年度)	直近値
年間がんのセカンドオピニオン紹介件数	-	305件 (R3.9.1)
がん診療連携拠点病院及び群馬県がん診療連携推進病院におけるがん患者リハビリテーション料算定件数	48,637件 (H28.1.1～H28.12.31)	49,908件 R2.4.1～12.31
小児に関わるがん看護専門看護職、緩和ケア認定看護師、化学療法看護認定看護師、がん性疼痛看護認定看護師、保育士、臨床心理士、ソーシャルワーカー、チャイルドライフスペシャリスト、臨床道化師、読み聞かせボランティアの配置	25人 (H30.3.31) ※群大病院、小児医療センター合計	28人 (R3.3.31) 小児に関わる緩和ケア認定看護師:1 保育士:9 臨床心理士:2 ソーシャルワーカー:8 臨床道化師:4 読み聞かせボランティア:3 ホスピタルプレイスペシャリスト:1
群馬大学医学部附属病院と県立小児医療センターによる定期カンファレンスの実施回数	-	6回 R2.4.1～R3.3.31
・がん登録データの利用承認件数(6年間)	2件 (平成28年度)	3件 累計17件 (令和4年度)
DCO(届出漏れの割合を表す)	2.9 (H26.1.1～12.31)	2.3 (H31.1.1～R元12.31)

3、がんになっても安心して暮らせる地域社会の構築

指 標	指標設定時(H30年度)	直近値
地域連携クリティカルパス適用患者数(2か月間)	350人 (平成29年)	404人 【拠点病院・推進病院 :R2.1月～12月】
・がん診療連携拠点病院でがん診療に携わる医師の緩和ケア研修受講率	90%(群大除く) (平成29年6月末) 【参考:78.4%(群大含む)】 (平成29年9月)	75.6% (令和3年9月)
・末期がん患者に対して在宅医療を提供する医療機関数(人口10万あたり)	3.4～19.4 (県全体10.3) (平成28年度)	6.1～23.5 (県全体12.6) (令和4年度)
日本緩和医療学会 緩和医療専門医を配置している、がん診療連携拠点病院及び群馬県がん診療連携推進病院の割合 ※緩和医療に関する十分な学識と経験を有する者を専門医	1病院/17病院 (H29.9.1)	7病院(6.1人)/17病院 (R3.9.1)
がん性疼痛緩和指導料1算定件数 ※医師がWHO方式のがん性疼痛の治療法にしたがって、計画的な治療管理、療養指導	3,828件 (H28.1.1～H28.12.31)	5,284件 (R3.9.1)
緩和ケアチームによる年間新規介入患者数	—	2,319人 (R3.9.1)
緩和ケア外来患者の年間受診患者のべ数	2,681人 (H28.1.1～H28.12.31)	2,425人 (R3.9.1)
がん診療連携拠点病院及び群馬県がん診療連携推進病院において、緩和ケアにおける苦痛のスクリーニングを行った患者数	—	19,199人 (R3.9.1)
緩和ケア病棟を有している、がん診療連携拠点病院及び群馬県がん診療連携推進病院数、及び病床数	5病院/101床 (H29.9.1)	5病院/101床 (R3.9.1)
緩和ケア研修修了医療従事者数(医師を除く:累計)(拠点病院実施研修)	719人 (H30.3.31) ※拠点病院合計	968人 (R4.3.31)
看護師向け緩和ケア研修(ELNEC-J)を修了した看護師数(累計)／がん診療連携拠点・推進病院	—	503人 (R4.3.31)
がん患者の在宅死亡割合(自宅+老人ホーム)	15.1% (平成29年)	21.9% (令和2年)
介護従事者向け在宅医療・緩和ケア研修を修了した介護従事者数(累計)	—	164人 (R3.3.31/R3実施なし)
麻薬調剤の実施可能な薬局数	679箇所 (H30.3.31)	791箇所 (R4.3.31)
がん相談支援センターの相談件数(歴年)	(参考:30,826件(H28.1.1～ H28.12.31))	27,746件 (R2.1.1～12.31)
国立がん研究センターによるがん相談支援センター相談員基礎研修を修了した相談員を配置する、がん診療連携拠点病院及びがん診療連携推進病院の割合	15病院/17病院 (H29.7.1)	16病院(62人)/17病院 (R3.9.1)
相談員指導者研修修了者数	—	5病院(7人) (R4.4.1)
認定がん専門相談員数	—	5病院(4人) (R4.4.1)
群馬県がんピアサポーター派遣人数	314人 (H29年度)	2人 (令和3年度) ※新型コロナウイルス感染症の影響により派遣 数減少
・ぐんまの安心がんサポートブック	毎年更新	更新
・ぐんまの安心がんサポートブック配布部数	—	27,717部
・就労に関する相談支援を実施するがん診療連携拠点病院及び群馬県がん診療連携推進病院数	10病院 (平成29年)	17病院 (令和3年度)